

JIN-AI UNIVERSITY

2025 SYLLABUS

令和7年度
大学院
シラバス



目 次

<倫理・自己成長科目>

臨床倫理特論	田代 俊孝・杉島 一郎・渡辺 克徳	1
セルフ・ディベロップメント特論	西村 則昭	3

<公認心理師科目>

心理支援に関する理論と実践	西村 則昭	5
心理的アセスメントに関する理論と実践	稲木康一郎・渡辺 克徳	7
教育分野に関する理論と支援の展開	後藤 智子	9
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	上宮 愛	11
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	森 俊之	14
保健医療分野に関する理論と支援の展開	渡辺 克徳	16
福祉分野に関する理論と支援の展開	水田 敏郎	19
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	山本 雅代	21
心の健康教育に関する理論と実践	杉島 一郎	23
心理実践実習	稲木・目黒・森・吉水・渡辺・今井田	25

<応用科目（応用・発展系）>

認知神経心理学特論	森本 文人	27
生体反応・行動測定法特論	大森 慈子・水田 敏郎	29
パーソン・センタード・セラピー特論	目黒 達哉・吉水ちひろ	31
認知行動療法特論	渡辺 克徳	33
投映法特論	吉水ちひろ	35

<応用科目（地域支援系）>

地域支援臨床心理学特論Ⅱ	稲木・目黒・吉水・渡辺	37
--------------	-------------	----

<研究指導科目>

臨床心理研究演習	大森・杉島・水田・森	39
----------	------------	----

臨床倫理特論			担当教員	田代 俊孝、杉島 一郎、渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-PH-2111	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学研究科 倫理・自己成長科目					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の高度専門職としての自分自身を深く省察する力を身につける					

授 業 の 内 容	
本大学院生は、研究および臨床実践等において高い倫理観が求められる。そのため、本特論では建学の精神に基づき、ヒト・動物を対象とする研究にかかわる「生命倫理」、研究不正の発生予防にかかわる「研究倫理」、臨床実践の有効性と安全性の予測・評価、さらには研究成果の公表にかかわる「臨床倫理」について学ぶ	
授 業 の 達 成 目 標	
・ 生命の倫理を研究や臨床実践に生かすことができるようになる ・ 研究倫理を身につけ、研究において実践することができるようになる ・ 臨床倫理を身につけ、臨床の現場において実践することができるようになる	
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：いのちの尊厳と生命倫理(担当：田代) 事前課題：身近なところで生命倫理が課題になったケースを調べてくる。(2時間) 事後課題：なぜ生命倫理が課題になるのか、生命倫理とは何かについて2000字程度でまとめる。(2時間) 第2回：脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死の倫理(担当：田代) 事前課題：「あなたは脳死になったとき臓器提供しますか」「あなたは終末期に安楽死・尊厳死を希望しますか」を考えてくる。(2時間) 事後課題：脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死の何が問題なのかを2000字程度で整理する。(2時間) 第3回：遺伝子治療とゲノム編集の倫理(担当：田代) 事前課題：細胞、染色体、遺伝子、ゲノム解析について調べてくる。(2時間) 事後課題：人が遺伝子を操作していいか。遺伝情報による差別をなくすにはどうしたらいいか。2000字程度にまとめる。(2時間) 第4回：生殖補助医療と代理母・代理出産の倫理(担当：田代) 事前課題：生殖ビジネスの実態をインターネットなどで調べてくる。(2時間) 事後課題：生殖補助医療と代理母・代理出産の倫理的課題について2000字程度にまとめる。(2時間) 第5回：QOLと「人生会議」ーホスピス・ビハラー(担当：田代) 事前課題：生命倫理教育がなぜ必要か。また、それをどのようにしたらいいか。さらに、普及させるにはどうしたらいいかを考えてくる。(2時間) 事後課題：この授業を受けて生命倫理についての考え方に変化があったかどうかを2000字程度でまとめる。そして、できれば家族と「人生会議」をして、それぞれの終末期の在り方について考えを深める。(2時間) 第6回：研究倫理の基本的考え方(担当：杉島) 事前学習：授業前にeラーニング上にある日本心理学会倫理規定を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：研究活動(実験・調査・臨床実践等)における倫理(担当：杉島) 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：論文執筆における倫理(担当：杉島) 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第9回：共同研究や指導者としての倫理(担当：杉島) 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと(2時間) 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)	

第10回：研究倫理を実際の事例から学ぶ（担当：杉島） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：臨床研究の倫理 ニュルンベルク綱領からベルモントレポートを踏まえて（担当：渡辺） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：臨床倫理とエビデンス・ベースト・プラクティス（担当：渡辺） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：臨床研究倫理審査の実際：ヒトを対象とした研究のための倫理的原則とガイドラインに沿って（担当：渡辺） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：心理臨床における倫理（1）実際の事例から学ぶ（担当：渡辺） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：心理臨床における倫理（2）実際の事例から学ぶ（担当：渡辺） 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）	
授業実施方法（面接授業・遠隔授業）	
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。	
成績評価方法	
生命倫理、研究倫理、臨床倫理それぞれのレポート（60%）と授業での発言や討議などの受講態度（40%）	
成績評価基準	
・生命の倫理を研究や臨床実践に生かすことができるか ・研究倫理を身につけ、研究において実践することができるか ・臨床倫理を身につけ、臨床の現場において実践することができるか	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック	
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他	
テキスト、参考図書	
参考図書 田代志門著「みんなの研究倫理入門 臨床研究になぜこんな面倒な手続きが必要なのか」医学書院 2020年 日本心理臨床学会「心理臨床学研究 論文執筆ガイド」一般社団法人日本心理臨床学会 2012年 原田隆之著「心理職のためのエビデンス・ベイスト・プラクティス入門」金剛出版 2015年	
その他（受講上の注意）	
オフィスアワー	
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

セルフ・ディベロップメント特論			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2112	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科 倫理・自己成長科目					
求める学習成果(教育目標)					
より深い自己理解を獲得する					

授 業 の 内 容	
フロイト以来の力動的心理療法の考え方を学びながら、自己分析をおこない、自己の問題に向き合い、自己の心の成長を目指す。	
授 業 の 達 成 目 標	
・「無意識」という概念を自身の実感に基づいて理解する。 ・「特定のー」としての自己の存在感覚を醸成する。 ・科学的な考え方を客観的・批判的に捉え、より広い視野で、人間とは何かを考え、現代の状況を分析できるようになる。	
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法	
第1回：オリエンテーション（無意識の探求とは） 事前学習：ディスカッションに備えて、最近見た夢を記録しておいたり、子どもの頃のことを思い出ししておくこと。（2時間） 事後学習：ディスカッションを振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第2回：描画法 事前学習：「風景構成法」と「星と波テスト」について調べておくこと。（2時間） 事後学習：描画体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第3回：スキグル 事前学習：D.W.ウィニコットとスキグルについて調べておくこと。（2時間） 事後学習：スキグル体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第4回：箱庭療法1 事前学習：箱庭療法について調べておくこと。（2時間） 事後学習：箱庭体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第5回：箱庭療法2 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第6回：箱庭療法3（元型的テーマを表現する） 事前学習：ユング心理学における「元型」の概念について調べておくこと。（2時間） 事後学習：箱庭体験（元型的イメージを表現する）を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第7回：マンダラ塗り絵 事前学習：ユング心理学におけるマンダラ象徴について調べておくこと。（2時間） 事後学習：マンダラ塗り絵体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第8回：コラージュ療法 事前学習：コラージュ療法について調べておくこと。（2時間） 事後学習：コラージュ体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第9回：夢分析1（精神分析の立場から） 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：夢分析2（ユング心理学の立場から） 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）	

第11回：グループ・ワーク 1 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：グループ・ワーク 2 事前学習：資料を参考にし、自分が演じるメンバーの設定を考えておくこと。（2時間） 事後学習：グループ体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第13回：ファンタジー・グループ 事前学習：ファンタジー・グループについて調べておくこと。（2時間） 事後学習：ファンタジー・グループ体験を振り返って、考えたことをレポートにまとめておくこと。（2時間） 第14回：禅に学ぶマインドフルネス 1 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：禅に学ぶマインドフルネス 2 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等を見直し、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
授業実施方法（面接授業・遠隔授業） 原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
成績評価方法 期末レポート（50%）、小レポート（30%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します）
成績評価基準 ・「無意識」という概念を自身の体験に基づいて理解できているか。 ・「特定のー」としての自己の立場で、思考できるようになったか。 ・科学的な考え方を客観的・批判的に捉え、より広い視野で、人間とは何かを考え、現代の状況を分析できるようになったか。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
テキスト、参考図書 こちらで準備する。また適宜伝える。
その他（受講上の注意） 質問はメールでも受け付けます（nisimura@jindai.ac.jp）
オフィスアワー UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理支援に関する理論と実践			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2121	2 単位	1 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容	
教育・司法・福祉・医療などさまざまな領域における臨床心理面接について学ぶ。	
授 業 の 達 成 目 標	
・クライアントの人格、基本的人権を尊重し、その心に寄り添いながら、専門的知見に立って、クライアントを正確に見立て、的確に対応していくことができる。 ・心理臨床センターで実際に事例を担当し、臨床心理実習のケース・カンファレンスにおいて発表、討論をおこなうための、特に理論面での土台を作る。 ・DSMなどの学派を超えた共通用語に習熟し、見立てをおこなったり、臨床場面におけるさまざまな現象を考えるために、それらを用いることができ、その上で精神分析などの理論を用いて、事例理解を深めることができる。	
授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション（心理面接とは何か） 事前学習：本授業では、これから心理面接の実践を学んでいくのに際して、心理面接とは何かについて予備的なディスカッションをおこなうため、これまで学部で学んできたことをまとめておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第2回：インテーク面接 事前学習：インテーク面接に関して調べておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第3回：ASD 1 事前学習：DSM-5のASDについて調べておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第4回：ASD 2 事前学習：山中康裕について調べておくこと（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第5回：不登校 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第6回：親面接 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第7回：男子非行 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第8回：女子非行 事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間） 事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）	

第9回：被虐待児

事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間）

事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第10回：性的虐待

事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間）

事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第11回：摂食障害

事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間）

事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第12回：パーソナリティ障害

事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間）

事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第13回：希死念慮

事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間）

事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第14回：精神病

事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間）

事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第15回：医師との連携

事前学習：配布する資料を熟読し、質問事項を考えておくこと。（2時間）

事後学習：資料等の見直しや、わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

期末レポート（50%）、小レポート（30%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します）

成績評価基準

- ・クライアントの人格、基本的人権を尊重し、その心に寄り添う姿勢ができているか。
- ・DSM-5などの共通言語に習熟しているか。
- ・その上で、精神分析などの特定の学派の考え方をを用いて、事例理解を深めることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
- 5) その他
☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他

テキスト、参考図書

APA, DSM-5, American Psychiatric Publishing, 2013.
その他、授業の中で適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

質問はメールでも受け付けます（nisimura@jindai.ac.jp）。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理的アセスメントに関する理論と実践			担当教員	稲木 康一郎、渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-CP-2122	2 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容
臨床心理査定に関する基本的な知識について学ぶとともに、代表的な知能検査や発達検査、神経心理学検査、人格検査の理論と実践について学ぶ。
授 業 の 達 成 目 標
・ 臨床心理査定の背景となる基礎理論について理解する。 ・ 代表的な発達・知能検査、神経心理学検査、人格検査について理解し、実践できる。
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：心理的アセスメントとは何か【担当：稲木】 事前学習：シラバスを熟読すること（2時間）。 事後学習：検査用具とマニュアルの保管場所を確認すること（2時間）。 第2回：心理アセスメントの進め方【担当：稲木】 事前学習：テキスト（Part 1）を精読すること（2時間）。 事後学習：レジュメ、検査者、被検査者の役割分担をすること（2時間）。 第3回：認知症スクリーニング（HDS-R、MMSE）【担当：稲木】 事前学習：HDS-RおよびMMSEの施行法を予習すること（2時間）。 事後学習：HDS-RおよびMMSEを実施すること（2時間）。 第4回：記憶のアセスメント①（MMS言語記憶検査）【担当：稲木】 事前学習：MMSの施行法を予習すること（2時間）。 事後学習：MMSを実施すること（2時間）。 第5回：記憶のアセスメント②（ベントン視覚記銘検査）【担当：稲木】 事前学習：ベントン視覚記銘検査の施行法を予習すること（2時間）。 事後学習：ベントン視覚記銘検査を実施すること（2時間）。 第6回：右半球症状のアセスメント（BIT 行動性無視検査）【担当：稲木】 事前学習：BITの施行法を予習すること（2時間）。 事後学習：BITを実施すること（2時間）。 第7回：遂行機能のアセスメント（BADSD遂行機能検査）【担当：稲木】 事前学習：BADSDの施行法を予習すること（2時間）。 事後学習：BADSDを実施すること（2時間）。 第8回：まとめと課題【担当：稲木】 事前学習：臨床心理査定セミナーを読んでおくこと（2時間）。 事後学習：レポート作成を準備すること（2時間）。 第9回：症状評価尺度の理解（抑うつ・不安を中心に）【担当：渡辺】 事前学習：SDS、BDI、POMS等について、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：SDS、BDI、POMS等について、データを整理して解釈すること。所見作成（2時間）。 第10回：人格検査の理解①（MMPIを中心に）【担当：渡辺】 事前学習：MMPIについて、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：MMPIについて、データを整理して解釈すること。（2時間）。 第11回：人格検査の理解②（MMPIを中心に）【担当：渡辺】 事前学習：MMPIについて、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：MMPIについて、データを整理して解釈すること。所見作成（2時間）。 第12回：発達検査の理解（新版K式発達検査を中心に）【担当：渡辺】 事前学習：新版K式について、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：新版K式について、データを整理して解釈すること。所見作成（2時間）。

第13回：知能検査の理解①（ウェクスラー知能検査WAISを中心に）【担当：渡辺】 事前学習：ウェクスラー式知能検査について、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：ウェクスラー式知能検査について、データを整理して解釈すること。（2時間）。 第14回：知能検査の理解②（ウェクスラー知能検査WISCを中心に）【担当：渡辺】 事前学習：ウェクスラー式知能検査について、マニュアルを読むこと（2時間）。 事後学習：ウェクスラー式知能検査について、データを整理して解釈すること。（2時間） 第15回：知能検査の活用（ウェクスラー知能検査WISCを中心に）【担当：渡辺】 事前学習：ウェクスラー式知能検査について、テキスト・資料を読むこと（2時間）。 事後学習：ウェクスラー式知能検査について、データを整理して解釈することと所見作成を目指す（2時間）。 ※第1回～第8回（テキスト Part 1 および Part 4）は稲木が、第9回から第15回（テキスト Part 2 および Part 3）は渡辺が担当する。 その授業で扱うテーマや心理検査について、授業前に各自で、参考書や検査マニュアル等を精読しておくこと。 学んだ心理検査について、自分なりに分析をしたり、お互いにロールプレイをするなどして実践活動に応用できるように努力すること。
授業実施方法（面接授業・遠隔授業）
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
成績評価方法
授業への受講態度および授業内での発表内容（40%）、心理検査を実践・分析して作成したレポート等（60%）によって総合的に評価する。
成績評価基準
・臨床心理査定の背景となる基礎理論について説明できるか。 ・授業で学んだ検査について理解し、実践できるか。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
テキスト、参考図書
テキスト（購入して、毎回持参してください） 下山晴彦 編著 「公認心理師のための『心理査定』講義」北大路書房 2021 参考図書（図書館等でご覧ください） 岡堂哲雄 編 「臨床心理学全書 臨床心理査定学」誠信書房 2004年 下仲順子 編 「臨床心理学全書 臨床心理査定技法（1）」誠信書房 2004年 皆藤章 編 「臨床心理学全書 臨床心理査定技法（2）」誠信書房 2004年 小山充道 編著 「必携 臨床心理アセスメント」金剛出版 2008年 村上宣寛・村上千恵子 著 「改定臨床心理アセスメントハンドブック」北大路書房2008年 そのほか、随時、紹介する。
その他（受講上の注意）
各種の心理検査について、授業外での積極的な演習を期待するが、検査用紙・器具等の取り扱いには注意を払うとともに、被検査者のデータ管理や情報の守秘などについて厳重に注意すること。 出席はeラーニングで取ります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育分野に関する理論と支援の展開			担当教員	後藤 智子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-ED-2123	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
発達や教育に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容
いじめ・不登校をはじめ、自死や災害などの学校危機・緊急支援など、現代の学校教育やスクールカウンセリングにおける児童生徒の様々な心理社会的問題について概論する。また、スクールカウンセラーとして活動するための基本的な知識と実践方法について、ロールプレイを通して具体的に学ぶ。さらに、スクールカウンセリングの実践に役立つ心理臨床上の課題について、事例検討を通して問題意識を深め、自ら主体的に学ぶ態度を養う。
授 業 の 達 成 目 標
学校教育現場における組織や運営の実際、およびスクールカウンセラーの立場や役割について理解する。また、スクールカウンセラーとして活動するための資質や態度を養い、基本的知識と実践力を身につける。
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：学校教育現場における臨床教育学および臨床心理学の役割 事前学習：授業前にテキスト第1章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第2回：スクールカウンセリングの発展と現状 事前学習：授業前にテキスト第2章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第3回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（1）不登校 事前学習：授業前にテキスト第5・6章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第4回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（2）いじめ 事前学習：授業前にテキスト第7・8章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第5回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（3）発達障害 事前学習：授業前にテキスト第10・11章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第6回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題（4）子どもの貧困と虐待 事前学習：授業前にテキスト第9章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第7回：スクールカウンセリングの実際（1）法と倫理 事前学習：学校教育に関連する法規について調べ、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第8回：スクールカウンセリングの実際（2）緊急支援 事前学習：授業前にテキスト第13章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業におけるディスカッションを踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第9回：スクールカウンセリングの実際（3）ストレスマネジメント 事前学習：授業前にテキスト第4章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：授業における体験学習を踏まえて、参考文献を読む（2時間） 第10回：スクールカウンセリングの実際（4）ロールプレイ（枠組み作り） 事前学習：仮想のクライアント役を設定し、役割作りを準備しておく（2時間） 事後学習：自分の演じたクライアントの問題の背景、見立てと対応について考察する（2時間） 第11回：スクールカウンセリングの実際（5）ロールプレイ（スタンスとアセスメント） 事前学習：授業前にテキスト第3・12章を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：相手方の演じたクライアントの問題の背景、見立てと対応について考察する（2時間） 第12回：スクールカウンセリングの実際（6）ロールプレイ（学校内外の連携） 事前学習：授業前に生徒指導提要（資料配布）を読み、質問項目をまとめておく（2時間） 事後学習：他のペアの演じたクライアントの問題の背景、見立てと対応について考察する（2時間）

第13回：スクールカウンセリングの実際（7）発表と質疑応答

事前学習：スクールカウンセリングの実践に資する事例検討を行う（2時間）

事後学習：自分および他の受講生の発表・質疑応答・討論を踏まえて考察を深める（2時間）

第14回：スクールカウンセリングの実際（8）発表と質疑応答

事前学習：スクールカウンセリングの実践に資する事例検討を行う（2時間）

事後学習：自分および他の受講生の発表・質疑応答・討論を踏まえて考察を深める（2時間）

第15回：学校教育現場におけるスクールカウンセリングの総合的理解

事前学習：第14回までの講義および実践の内容を振り返り、質問項目をまとめておく（2時間）

事後学習：第15回までの講義全体を振り返り、他の受講生の意見や感想を踏まえて、考察を深める（2時間）

* 事前学習として、日頃から学校教育や生徒指導・教育相談、特別支援教育、スクールカウンセリングに関する資料や報道等に関心を持ち、問題意識をもって講義に臨んでください。また事後学習として、講義で扱ったテーマについて文献や資料等に当たって、継続的に知識を拡充し理解を深めてください。

（なお、社会的状況に即して、扱うテーマ（いじめ、緊急支援等）に適宜重みづけをすることがあります。）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

事例発表・検討とコメント（25%）ロールプレイ・演習とコメント（25%）平常点・コメント（50%）
・平常点は、授業への参加状況、受講態度、コメント用紙の提出状況等を総合して判断します。

成績評価基準

- ・将来のスクールカウンセラーとして、基本的な知識と技法の理解を備えているか。
- ・将来の心理臨床家としての自覚と責任感に裏打ちされた主体的態度を身につけているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1) 授業時の課題に対するフィードバックについて

☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他

2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて

☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他

3) 小レポートに対するフィードバックについて

☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他

4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて

☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他（授業時に提出されるコメントやレポートに対してフィードバックを随時行う）

5) その他（メールで寄せられた質問に対するフィードバックについて）

☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☒ メール ☐ その他

テキスト、参考図書

卯月研次・後藤智子編著『心とふれあう教育相談（改訂版）』北樹出版（2025）を教科書として用います。他、適宜、資料を配布します。

その他（受講上の注意）

質問や疑問、問い合わせ等がありましたら、goto.baika@gmail.comまで、ご連絡ください。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開			担当教員	上宮 愛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-FS-2121	2 単位	1 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
司法犯罪領域における心理とエビデンスにもとづくその支援を理解するための知識を習得する。					

授 業 の 内 容
本科目は公認心理師となるために必要な大学院の科目である。司法犯罪領域においては、支援対象者（被害者、目撃者）は、被害の開示、捜査、裁判などのプロセスを進み、そのプロセスにおいては適切な事実認定と、タイミングに応じた心理ケアの両方が必要とされる。公認心理師は、支援対象者に対しての心理支援を行う中で、司法犯罪領域における様々な職種と連携しながら、切れ目のない支援を提供していくことが求められる。本授業では、正確な事実認定のために必要となる面接技法の習得と、被害開示から裁判までのプロセスにおける心理ケアの実践、そして、裁判終了後の長期的な心理ケアの重要性について学ぶ。
授 業 の 達 成 目 標
到達目標は、以下の3点である。 1) 被害者・目撃者の供述を汚染・誘導することなく被害内容を聴取するための面接手続き（司法面接）を習得する 2) 事実認定を目的とした面接を分析、評価できるようになる 3) 被害開示から裁判までの事実認定のプロセス、またその先の集中的な治療において、適切な心理支援を理解する
授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：イントロダクション 事前学習：現代社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、現代社会に関する本を図書館で探すとよい。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第2回：事実確認と心理ケアの連携の重要性 事前学習：目撃証言に関する本を図書館で探すとよい。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第3回：司法面接（客観的聴取技法） 事前学習：司法面接に関する本を図書館で探すとよい。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第4回：NICHHDプロトコル 事前学習：前回の内容の復習を行い、司法面接について自分の言葉で解説できるようにしておく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第5回：ロールプレイ1 事前学習：面接の計画を立てておく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第6回：ロールプレイ2 事前学習：面接の計画を立てておく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第7回：ロールプレイ3 事前学習：面接の計画を立てておく。（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

- 第8回：面接を分析する（司法面接のスーパーヴィジョン）
事前学習：面接を書き起こしておく。（2時間）
事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）
- 第9回：チャイルド・デス・レビュー 1
事前学習：児童虐待の死亡事例についてネット情報を集める。（2時間）
事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）
- 第10回：チャイルド・デス・レビュー 2
事前学習：児童虐待の死亡事例についてネット情報を集める。（2時間）
事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）
- 第11回：トラウマ・インフォームド・ケア
事前学習：トラウマ・インフォームド・ケアについての情報を集める。（2時間）
事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）
- 第12回：TF-CBT
事前学習：PTSD社会に関係する新聞記事、ネット情報を集める。（2時間）
事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）
- 第13回：PTSD論文 1
事前学習：指定されたPTSDに関わる論文を読んでおく。（2時間）
事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）
- 第14回：PTSD論文 2
事前学習：指定されたPTSDに関わる論文を読んでおく。（2時間）
事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）
- 第15回：まとめ
事前学習：司法犯罪領域において、公認心理師が行える国民への心理教育プログラムについて考えておく。（2時間）
事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

平常点50パーセント レポート50パーセント
（平常点は、授業への参加状況・受講態度・質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成績評価基準

- 1) 被害者・目撃者の供述を汚染・誘導することなく被害内容を聴取するための面接手続き（司法面接）が習得できたか
- 2) 事実認定を目的とした面接を分析、評価できるようになったか
- 3) 被害開示から裁判までの事実認定のプロセス、またその先の集中的な治療において、適切な心理支援を理解することができたか

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
- 5) その他
☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他

テキスト、参考図書
特になし 毎回の授業で、配布資料を配布する
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-SC-2125	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。					

授 業 の 内 容
本授業では、家族関係や集団、地域社会と関わる心理学の理論と支援について考える。 その中でも、家族関係は、私たちが初めて出会いもっとも密接に関わる社会集団はである。そこで第1に、家族システムの視点を基に家族関係に関する理論や家族療法などについて概観する。第2に集団に関わる心理学として、集団精神療法やエンカウンターグループなどの理論と実践について概観する。第3に地域社会に関わる心理学として、コミュニティ心理学を基に理論と実践について概観する。
授 業 の 達 成 目 標
現代社会における家族関係の心理的な仕組みや家族が抱える様々な心理的問題について理解を深め、家族への心理的援助の専門的な知識を身に付ける。これらの知識を実際の問題に適用し、家族への具体的な心理的援助が行えるようになることを目標とする。
授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：家族関係・集団・地域社会に関わる心理学について概観する 事後学習：授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる。(4時間) 第2回：家族に関わる心理学① 家族システム理論 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第3回：家族に関わる心理学② コミュニケーション理論 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第4回：家族に関わる心理学③ 家族の健康 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第5回：家族に関わる心理学④ 家族の発達段階 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第6回：家族に関わる心理学⑤ 家族のアセスメント 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第7回：家族に関わる心理学⑥ 介入技法 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第8回：集団に関わる心理学① 理論と歴史 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第9回：集団に関わる心理学② 介入技法 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第10回：地域社会に関わる心理学① コミュニティ心理学 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間) 第11回：地域社会に関わる心理学② 介入技法 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる(3時間) 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。(1時間)

第12回：事例の検討① 家族療法 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる（3時間） 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。（1時間） 第13回：事例の検討② グループ・アプローチ 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる（3時間） 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。（1時間） 第14回：事例の検討③ コミュニティ・アプローチ 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる（3時間） 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。（1時間） 第15回：まとめと実践に向けての留意点 事前学習：前回の授業の最後に指示された課題について、調べてまとめる（3時間） 事後学習：授業での議論を踏まえて、事前学習でまとめたものをまとめ直す。（1時間）
授業実施方法（面接授業・遠隔授業）
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
成績評価方法
授業内で実施する確認テスト（80%）、平常点（20%） （平常点は、授業への参加状況、討論内容により総合的に評価する。）
成績評価基準
・現代社会における家族の問題について、家族心理学的立場から考えることができるか。 ・家族に対する見立てや介入を行うための力が身についたか。 ・家族療法および夫婦療法の理論や技法を説明できるか。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
テキスト、参考図書
【テキスト】 テキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。 【参考図書】 ・布柴靖枝ほか編著（2019）家族関係・集団・地域社会. 木立の文庫. ・中釜他（編著）家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助—. 有斐閣ブックス. ISBN 978-4-641-18367-4 ・日本家族研究・家族療学会編（2013）. 家族療法テキストブック 金剛出版 ・亀口憲治編（2004）臨床心理面接技法3（臨床心理学全書10） 誠信書房 ・金沢吉展編（2004）臨床心理的コミュニティ援助論（臨床心理学全書11） 誠信書房 その他適宜紹介する
その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

保健医療分野に関する理論と支援の展開			担当教員	渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-MD-2126	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容
医療の進歩に伴って、精神科医療のみならず身体科医療や地域保健などさまざまな領域での心理的支援のニーズが高まってきている。本科目では、保健医療分野での業務の特徴や職域の紹介、さまざまな実践現場での心理支援や課題について解説する。多職種と連携し、チーム医療を実践していく中で公認心理師に求められる役割について考える。
授 業 の 達 成 目 標
公認心理師として保健医療分野で働ける力を身につける。 保健医療分野で必要とされるチームアプローチの考え方、さまざまな専門領域における支援の実際についての理解を深める。
授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：保健医療分野における心理臨床 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第2回：医療におけるアセスメントと心理支援 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第3回：多職種協働・チームアプローチ 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第4回：（支援の実際①）精神科・児童精神科 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第5回：（支援の実際②）発達障害 ― 成人期の発達障害に焦点を当てて 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第6回：（支援の実際③）うつ病の復職支援 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第7回：（支援の実際④）依存症 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間） 第8回：（支援の実際⑤）認知症高齢者 事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

第9回：（支援の実際⑥）がん医療・緩和ケア

事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

第10回：（支援の実際⑦）痛み・疼痛へのアプローチ

事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

第11回：（支援の実際⑧）糖尿病・透析患者への心理支援

事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

第12回：（支援の実際⑨）遺伝カウンセリング

事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

第13回：（支援の実際⑩）周産期・小児科

事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

第14回：地域保健活動

事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

第15回：災害における心理支援

事前学習：授業前にテキスト・参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）

事後学習：わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して質問すること。（2時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

授業内レポート（40%）、平常点（60%）

（平常点は、授業への参加状況、討論内容など総合的に評価する。）

成績評価基準

- ・保健医療分野に関わる公認心理師の実践について理解する
- ・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチを理解し実践できる
- ・多職種連携及び地域連携について理解し実践できる
- ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解し実践できる

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 5) その他（招待講義に対するフィードバックについて）
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

テキスト、参考図書

テキスト、小林真理子「保健医療心理学特論－保健医療分野に関する理論と支援の展開－」放送大学教育振興会 NHK出版
 参考書、山崎久美子・津田彰・島井哲志編著「保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理」ナカニシヤ出版会

その他(受講上の注意)

学習する範囲が広く、すべての内容を扱うことはできない。開講前にテキスト・参考図書を読了していることが望ましく、履修者の学習・努力が必要である。

オ フ ィ ス ア ワ ー

UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

福祉分野に関する理論と支援の展開			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-MD-2127	2 単位	1 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。					

授 業 の 内 容
福祉分野での心理支援の実践を学ぶ。近年支援ニーズの高い発達障害のアセスメントと支援を中心に、さまざまな障害に合わせた支援を考える。
授 業 の 達 成 目 標
知的障害・発達障害をはじめとしたさまざまな障害のアセスメントと支援法について理解する。 福祉分野におけるさまざまな心理支援の実践について理解する。
授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：ガイダンス・福祉分野における心理支援の概略 事前学習：学部で学んだ福祉心理学、障害者・障害児心理学の内容を自分なりに復習しておく（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第2回：知的障害・発達障害のアセスメント① 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第3回：知的障害・発達障害のアセスメント② 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第4回：知的障害・発達障害のアセスメント③ 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第5回：知的障害・発達障害の支援① 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第6回：知的障害・発達障害の支援② 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第7回：知的障害・発達障害の支援③ 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第8回：視覚障害の心理と支援 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第9回：聴覚障害の心理と支援 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第10回：肢体不自由の心理と支援 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第11回：愛着障害と子育て支援① 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第12回：愛着障害と子育て支援② 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間）

第13回：高齢者の心理支援① 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第14回：高齢者の心理支援② 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間） 第15回：その他の福祉分野の心理支援・まとめ 事前学習：前回の授業時に指示したキーワードや資料等の下調べ（2時間） 事後学習：授業中に指示したレポートをまとめる（2時間）
授業実施方法（面接授業・遠隔授業）
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
成績評価方法
授業中に指示するレポート課題（80%）と授業時の発表態度等（20%）をもとに評価する。
成績評価基準
知的障害・発達障害をはじめとしたさまざまな障害のアセスメントと支援法について説明できるとともに実践できるか。 福祉分野におけるさまざまな心理支援の実践について説明できるか。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
テキスト、参考図書
参考図書：知的障害の心理学－発達支援からの理解（北大路書房）ほか、適宜、授業中に資料を配付したり紹介したりする。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業・労働分野に関する理論と支援の展開			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-SC-2128	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。					

授 業 の 内 容
人間は様々な社会的状況の中で生き、他者や社会、集団や組織と相互に影響し合っている。複雑化する社会の中で目の前の問題をどう認知し、働きかけていくべきかは重要な問題となる。対人認知、意思決定、合理的判断と不合理、直感と論理、ヒューリスティクスとバイアス、社会的ジレンマなど人間の心理的、行動的特性を理解しながら、日本社会における産業・組織の在り方について理解を深める。また、実証的研究方法を考察するとともに、課題解決するためにはどうすべきか議論する。
授 業 の 達 成 目 標
・人間の行動特性について学ぶとともに、日本社会における産業、組織の在り方について概観する。 ・組織の中でおこる問題と個人に与える心理的影響について学ぶ。 ・論文の読解、討論、批判的視点について学ぶ。
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、自分なりの意見をまとめておくこと（2時間） 第2回：産業・組織とは何か 事前学習：授業前に産業・組織心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第3回：人財育成について 事前学習：授業前に人財育成に関する書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第4回：モチベーションについて（1） 事前学習：授業前にモチベーションについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第5回：モチベーションについて（2） 事前学習：授業前にモチベーションについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第6回：リーダーシップについて（1） 事前学習：授業前にリーダーシップについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第7回：リーダーシップについて（2） 事前学習：授業前にリーダーシップについて関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第8回：意思決定について（1） 事前学習：授業前に意思決定について関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第9回：意思決定について（2） 事前学習：授業前に集団意思決定について関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第10回：事例発表とディスカッション、コメント 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間） 第11回：事例発表とディスカッション、コメント 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間） 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）

第12回：事例発表とディスカッション、コメント
 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間）
 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）

第13回：事例発表とディスカッション、コメント
 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間）
 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）

第14回：事例発表とディスカッション、コメント
 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間）
 事後学習：授業で課された課題についてまとめ、次回授業で発言できるように準備する（2時間）

第15回：事例発表とディスカッション、コメント
 事前学習：授業前に産業心理学関連の書籍を読んでおくこと（2時間）
 事後学習：授業で課された課題についてまとめる（2時間）

講義前・講義後において理解を深めるよう努力すること。関連論文・参考文献等講義内にて指示する。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

レポート（50%）、発表の内容やディスカッションへの参加状況（50%）

成績評価基準

- ・産業組織に対する理解を深めることができたか。
- ・現実社会での個人の心理、行動を理解し、研究と結び付けて考えることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☒仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 5) その他
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

テキスト、参考図書

講義の中で指示する。

その他（受講上の注意）

最初にTeamsに登録すること。
 担当箇所について発表する際にはレジメにまとめ、人数分用意しておくこと。
 1週間前にはレジメを提出しておくこと。発表者の意見に耳を傾け、積極的に議論に参加すること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心の健康教育に関する理論と実践			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2129	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。					

授 業 の 内 容
心理教育とは、心の健康教育すなわち自身のメンタルヘルスについて理解と予防を促したり、また障害や精神疾患を持つ人の家族や周囲の人々あるいは社会に対し障害や精神疾患等についての理解を促すものである。本講義においては、メンタルヘルスの維持や発達障害や無気力に対する対応を中心に、心の健康教育の理論と実践を講義する。
授 業 の 達 成 目 標
・心の健康教育の理論を理解する。 ・心の健康教育を実践する能力を身につける。
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：心の健康教育の意義 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（4時間） 第2回：現代社会における心の健康における問題 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第3回：社会における発達障害者が抱える問題 事前学習：発達障害に関する定義と特徴について調べておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第4回：心の健康教育の理論Ⅰ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第5回：心の健康教育の理論Ⅱ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第6回：心の健康教育の理論Ⅲ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第7回：心の健康教育の実践例Ⅰ 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第8回：心の健康教育の実践例Ⅱ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第9回：発達障害に関する心理教育Ⅰ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第10回：発達障害に関する心理教育Ⅱ 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間）

第11回：社会に対する発達障害の理解促進の実践例 事前学習：事前に提示したテーマをもとに授業中に発表するため、どのような心理教育が可能かを考える。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第12回：無気力（学習性無力感） 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第13回：教育場面における心理教育の実践 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第14回：職場における心理教育の実践 事前学習：事前に配布する論文を熟読しておくこと。（2時間） 事後学習：授業で紹介した文献を読み、理解を深めておくこと。（2時間） 第15回：各自の発表 事前学習：自分で決めたテーマで心理教育の発表を行うので、準備すること。（4時間）
授業実施方法（面接授業・遠隔授業）
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
成績評価方法
授業内での発表（60%）と討議の姿勢（40%）
成績評価基準
・心の健康教育の理論を理解し説明できるか。 ・心の健康教育を実践する能力を身につけたか。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
テキスト、参考図書
テキストは使用せず、その都度資料等を配布する。次回講義に必要な論文は各回ごとに指示する。 参考図書は適宜紹介する。
その他（受講上の注意）
各自に適宜発表を課するため、事前準備を怠らないようにすること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理実践実習			担当教員	稲木康一郎、目黒 達哉、森 俊之、 吉水ちひろ、渡辺 克徳、今井田貴裕	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PR-2920	10単位	1 ～ 2 年	実習	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 公認心理師科目					
求める学習成果(教育目標)					
心理臨床における実践的な能力を育成する。					

授 業 の 内 容
実際の心理臨床の現場に実習生として参画し、直接、利用者の方との関わりも体験しながら、心理臨床の実践を学ぶ。具体的には、本学の附属心理臨床センターにおける実習と、大学外の実習協力施設（医療領域、福祉領域、教育領域の3施設）における実習を行う。
授 業 の 達 成 目 標
・心理支援を要する者等とコミュニケーションをとり、心理検査や心理面接、地域支援等を行うことができる ・心理支援を要する者等を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成することができる ・心理支援を要する者へのチームアプローチができる ・多職種連携及び地域連携をすることができる ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解する
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
1年次および2年次の2年間を通して、下記のとおり、本学の附属心理臨床センターにおける実習と、大学外の実習協力施設（医療領域、福祉領域、教育領域の3施設）における実習を行う。大学外の実習については、現地での実習に加えて、大学内において事前・中間・事後指導も行う。 ●附属心理臨床センターにおける実習（300時間） 1年次、2年次を通して、下記の内容を行う。 ○インテーク面接陪席 1年次前期の中頃より随時、インテーク面接への陪席を体験する。インテーカーの指導のもとインテーク報告書を作成し、インテークカンファレンスにて発表する。 ○ケース担当 1年次後期より、特定のクライアントのケース担当者となり、継続的にカウンセリングや遊戯療法等を担当する。担当ケースについて、ケース報告をまとめてケースカンファレンスにおいて発表する。 ○ケースカンファレンスへの参加 1年次及び2年次を通して、定期的に行われるケースカンファレンスに参加する。自分の担当ケースについてケース報告をするとともに、他者の報告ケースに対しても討論に参加し、ケースの理解を深める。 ○受付、備品管理等のセンター業務担当 受付や備品管理等のセンター業務を当番制により担当する。窓口や電話を通してクライアント等と関わることを通して、基礎的なコミュニケーション力を高める。各相談室の備品管理や清掃などを通して、相談施設としての環境に対する理解を深める。 ○地域向け公開講座等の運営 地域向けに開催される公開講座の事前準備や当日運営に関わることで、地域支援のあり方に対する理解を深める。 ●医療領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間） 原則として2年次の5～7月の時期に、実習協力施設である個々の病院・診療所の実状に応じて、下記の内容を行う。 ・病院組織の理解 ・医師の診察への陪席 ・心理検査、各種心理療法、デイケア等への陪席 ・入院患者等との関わり ・ケースカンファレンス等への参加 など

●福祉領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間）

原則として2年次の8～9月の時期に、実習協力施設である個々の児童相談所や社会福祉施設の実状に応じて、下記の内容を行う。

- ・児童相談所や社会福祉施設の組織の理解
- ・心理検査や面接等への陪席
- ・判定票や支援計画書等の作成指導
- ・入所の利用者等との関わり
- ・処遇会議等への陪席 など

●教育領域に関する学外施設での実習（事前事後指導を含め50時間）

原則として2年次の10～12月の時期に、実習協力施設である個々の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の実状に応じて、下記の内容を行う。

- ・学校組織の理解
- ・スクールカウンセラー業務の陪席
- ・相談室・保健室登校の児童生徒との関わり
- ・授業や部活動場面における児童生徒の観察
- ・職員会議等への陪席 など

それぞれの心理臨床現場で体験する様々な事柄と、これまで学んだきた専門的知識を関連づけて考察を深めること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

附属心理臨床センターでの実習に関しては、陪席やケース担当へのエントリー状況、カンファレンス等での発言状況などを総合して評価する（40％）。外部の実習協力施設での実習に関しては、参加状況や取り組み姿勢、報告書などによって総合的に評価する（各20％）。

成績評価基準

- ・心理支援を要する者等とコミュニケーションをとり、心理検査や心理面接、地域支援等を行うことができるか
- ・心理支援を要する者等を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成することができるか
- ・心理支援を要する者へのチームアプローチについて実践できるか
- ・多職種連携及び地域連携について実践できるか
- ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務を説明できるか

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 5) その他
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

テキスト、参考図書

参考図書：下山晴彦（編）「臨床心理学全書4 臨床心理実習論」 誠信書房 2006年
 そのほか、随時、紹介する。

その他（受講上の注意）

実際の心理臨床実践の場を体験することになるため、それぞれの施設の指導者の指示に従い、それぞれの施設にふさわしい姿勢や行動を心がけること。とくに、当該施設や利用者に関する情報の守秘については厳守すること。一つ一つの実習の体験が、貴重な学びの場であることを自覚し、積極的かつ真摯な態度で臨むこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー

UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

認知神経心理学特論			担当教員	森本 文人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2131	2 単位	1 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 応用科目（応用・発展系）					
求める学習成果（教育目標）					
要心理支援者への心理支援をする能力					

授 業 の 内 容
本講義では、認知神経科学等の脳機能に関するデータおよび心理学的な行動データを基に、人間のこころにおける認知的側面についての理解を目指した客観的・実証的な研究とその方法について紹介する。注意、記憶、学習、言語などの認知機構のメカニズムについて、神経基盤などの構造およびその機能の両面から考察し、より深く人を理解しそれを支援することにつながる方法・知見・姿勢を獲得することを目的とする。
授 業 の 達 成 目 標
認知機能について探索・検討するための客観的・実証的な方法を理解する。 認知機能と神経機構との関連について考察する力を身につける。
授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：認知神経心理学とはどのような学問か 事前学習：認知神経科学の歴史的な流れについて調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第2回：脳外観・全体論と局在論 事前学習：「全体論」と「局在論」という語について、調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第3回：脳神経科学研究法・脳機能測定法 事前学習：生体の脳機能を測定する方法について、調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第4回：視覚神経系 事前学習：視覚情報の入り口である「眼」とその後の情報処理に至る脳の神経経路について、調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第5回：聴覚神経系 事前学習：聴覚情報の入り口である「耳」とその後の情報処理に至る脳の神経経路について、調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第6回：失認・半側空間無視 事前学習：脳への器質的ダメージなどにより起こる「失認」とその最たる例である「半側空間無視」について、調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第7回：嗅覚・味覚神経系・共感覚 事前学習：嗅覚・味覚情報の入り口である「鼻」と「口（舌）」とその後の情報処理に至る脳の神経経路について、調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第8回：体性感覚・運動 事前学習：共感覚および錯覚の神経的なメカニズムについて、調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第9回：注意と意識に関連した神経システム 事前学習：注意機能に関する神経メカニズムについて調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間） 第10回：学習・記憶の神経基盤 事前学習：学習・記憶に関する神経的なメカニズムについて調べておく。（2時間） 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。（2時間）

第11回：意思決定・意識 事前学習：意識に関する科学的なアプローチについて調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第12回：情動の神経基盤 事前学習：情動に関する神経メカニズムについて調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第13回：情動と内受容感覚 事前学習：「内受容感覚」という語について調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第14回：脳の発達と認知(1) 事前学習：脳の発達による認知機能の成熟、社会性との関連について調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間) 第15回：脳の発達と認知(2) 事前学習：老化とそれに伴う認知機能の変化について調べておく。(2時間) 事後学習：授業の内容を整理し、分からないところがあれば調べておく。(2時間)
授業実施方法(面接授業・遠隔授業)
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
成績評価方法
レポート(50%)、平常点(50%) 平常点は、授業への参加状況、ミニレポート、受講態度などを総合的に判断します。
成績評価基準
認知機能について探索・検討する客観的・実証的な方法を理解しているか。 認知機能と神経機構との関連について考察する力が備わっているか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
テキスト、参考図書
テキストは使用しない。 参考図書は適宜紹介する。
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生体反応・行動測定法特論			担当教員	大森 慈子、水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-RM-2132	2 単位	1 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 応用科目（応用・発展系）					
求める学習成果（教育目標）					
要心理支援者の心理状態等の分析をする力を身につける					

授 業 の 内 容
情動・認知をはじめとするさまざまな心的事象評価のための、生体反応および行動の計測と分析法について理解を深める。心の変容を、微細な生理反応や生化学的変化から直接観察可能な動作や発声までの多面的な指標によって捉え、客観的な事実として可視化することの可能性と重要性について再認識する。
授 業 の 達 成 目 標
情動・認知などの心的事象評価に活用可能な生体反応および行動の計測と分析法について理解する。
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：感情の測定と評価①（大森・水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第2回：感情の測定と評価②（大森・水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第3回：実験操作の工夫①（大森） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第4回：実験操作の工夫②（大森） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第5回：インフォームド・コンセント（大森・水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第6回：生体反応の測定と分析①（大森・水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第7回：生体反応の測定と分析②（水田・大森） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第8回：映像解析—行動指標の分析①（大森） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第9回：映像解析—行動指標の分析②（大森） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第10回：脳研究の枠組み①（水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：脳研究の枠組み②（水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：脳機能の評価①（水田・大森） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：脳機能の評価②（水田・大森） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：障害の評価①（水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：障害の評価②（水田） 事前学習：授業前に予定されている内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
授業実施方法（面接授業・遠隔授業）
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
成績評価方法
レポート（50%）、平常点（50%） 平常点は、授業への参加状況や受講態度などを総合して判断します。
成績評価基準
要心理支援者の心理状態等の分析をする力を身につけることができたか。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他
テキスト、参考図書
テキストは使用しない。 参考図書は、適宜紹介する。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

パーソン・センタード・セラピー特論			担当教員	目黒 達哉、吉水 ちひろ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-PR-2121	2 単位	1 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 応用科目（応用・発展系）					
求める学習成果（教育目標）					
要心理支援者への心理支援をする力を習得する					

授 業 の 内 容	
・パーソン・センタード・セラピーの概要を知り、主要な理論と方法を理解する。 ・パーソン・センタード・セラピーが重視する、相手を共感的に理解することや傾聴の態度およびスキルについて体験的に学ぶ。	
授 業 の 達 成 目 標	
・課題への取り組みや授業での発言など、自ら学ぼうとする主体的態度を有しているか。 ・附属心理臨床センターでの実践実習と関連づけ、体験的に理解し、基本的な姿勢を身につけることができるか。	
授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第2回：パーソン・センタード・セラピー概論1ー歴史的発展と理論ー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第3回：パーソン・センタード・セラピー概論2ー基本的な方法ー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第4回：パーソン・センタード・セラピー概論3ー発展的な方法ー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第5回：パーソン・センタード・セラピーの実践1ー心理面接におけるプロセス・インテークー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第6回：パーソン・センタード・セラピーの実践2ー心理面接におけるプロセス・アセスメントー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第7回：パーソン・センタード・セラピーの実践3ー心理面接におけるプロセス・ケースフォーミュレーションー 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第8回：ロールプレイにおいて心理面接の基本的態度、技能を学ぶ1 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第9回：ロールプレイにおいて心理面接の基本的態度、技能を学ぶ2 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第10回：ロールプレイにおいて心理面接の基本的態度、技能を学ぶ3 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第11回：ロールプレイにおいて心理面接の基本的態度、技能を学ぶ4 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間） 第12回：ロールプレイにおいて心理面接の基本的態度、技能を学ぶ5 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間）	

- 第13回：ロールプレイにおいて遊戯療法の基本的態度、技能を学ぶ1
 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間）
- 第14回：ロールプレイにおいて遊戯療法の基本的態度、技能を学ぶ2
 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間）
- 第15回：まとめ
 事前学習：授業に関連する内容について調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
 事後学習：授業内容を復習し分からないところはさらに調べる。課題のレポートを作成する。（2時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

平常点60%（授業の参加状況、受講態度、発表やディスカッションの積極性など総合的に評価）、レポート40%

成績評価基準

- ・課題への取り組みや授業での発言など、自ら学ぼうとする主体的態度を有しているか。
- ・附属心理臨床センターでの実践実習と関連づけ、体験的に理解し、基本的な姿勢を身につけることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☒その他
- 5) その他
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

テキスト、参考図書

必要に応じて授業中に資料配布する。

その他（受講上の注意）

附属心理臨床センターにおける心理実践実習と連動する内容である。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

認知行動療法特論			担当教員	渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CP-CP-2134	2 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 応用科目（応用・発展系）					
求める学習成果（教育目標）					
要心理支援者への心理支援をする能力					

授 業 の 内 容
認知行動療法はエビデンスベースの心理療法として、様々な臨床症状や問題行動に効果を上げている。本講義では、現在用いられている認知行動療法について理論と歴史を学ぶ。その上で行動療法系、認知療法系、マインドフルネス系の技法と発展を理解し深める。特にうつと不安に対する実践力の醸成を図る。
授 業 の 達 成 目 標
行動療法系、認知療法系、マインドフルネス系の技法とその発展を理解し、実践するための基礎知識を身につける。特にうつと不安の認知行動療法については、マニュアルを用い実践できるだけの基本的知識を身につける。
授業の計画及び授業外の学習方法
第1回：行動療法系① 行動療法とは 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第2回：行動療法系② レスポンド条件づけからエクスポージャーへ 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第3回：行動療法系③ オペラント条件づけから機能分析 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第4回：行動療法系④ 暴露反応妨害法と行動活性化 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第5回：行動療法系⑤ 言語行動からACTへ 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第6回：認知療法系① ベックの認知療法と治療の流れ 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第7回：認知療法系② 認知的概念化 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第8回：認知療法系③ 自動思考と感情、そして中核信念へ 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第9回：認知療法系④ 認知技法と行動技法、ホームワークの設定 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第10回：認知療法系⑤ 終結と再発予防、認知療法尺度について 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：マインドフルネス系① 新世代の認知行動療法とは 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第12回：マインドフルネス系② マインドフルネス認知療法 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：マインドフルネス系③ メタ認知療法 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：マインドフルネス系④ 弁証法的行動療法 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：マインドフルネス系⑤ アクセプトランス&コミットメント・セラピー 事前学習：授業前に参考図書等を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：授業内容の復習、配布資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
授業実施方法（面接授業・遠隔授業） 原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
成績評価方法 授業内レポート（40%）、平常点（60%） （平常点は、授業への参加状況、討論内容など総合的に評価する。）
成績評価基準 認知行動療法の視点から、心理的援助について考察し、説明できるか。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 1）授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3）小レポートに対するフィードバックについて ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5）その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
テキスト、参考図書 【参考図書】三田村仰著「はじめてまなぶ行動療法」金剛出版 2017 ジュディス・S・ベック（著）、伊藤 絵美（翻訳）、神村 栄一（翻訳）、藤澤 大介（翻訳）「認知行動療法実践ガイド：基礎から応用まで 第2版 -ジュディス・ベックの認知行動療法テキスト」星和書店 2015 熊野宏昭著「新世代の認知行動療法」日本評論社 2012
その他（受講上の注意） 学習する範囲が広く、すべての内容を扱うことはできない。開講前に参考図書を読了していることが望ましく、履修者の学習・努力が必要である。
オフィスアワー UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

投映法特論			担当教員	吉水　ちひろ	
講義コード	単　　位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-CP-2135	2 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分>　人間学研究科　臨床心理専門科目　応用科目（応用・発展系）					
求める学習成果（教育目標）					
要心理支援者の心理状態等を分析する力を習得する。					

授 業 の 内 容
臨床現場で用いられる代表的な投映法検査について学び、中でも包括システムによるロールシャッハテストの実施法と解釈法の習得を目指す。さらに、臨床場面で実施されるパーソナリティ・アセスメントの実際について理解を深める。
授 業 の 達 成 目 標
①演習で取り上げた各種のテストについて、その理論や適用、実施法について理解し説明できること。 ②ロールシャッハテストについては、施行手続きから、スコアリング、解釈まで理解し実施できること。
授 業 の 計 画 及 び 授 業 外 の 学 習 方 法
第1回：オリエンテーション 事前学習：心理査定に関する基本的知識を復習しておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：さまざまな投映法から学ぶ(1) 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第3回：さまざまな投映法から学ぶ(2) 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第4回：さまざまな投映法から学ぶ(3) 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第5回：さまざまな投映法から学ぶ(4) 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：ロールシャッハテストの概説 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：コーディング解説・演習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第8回：ロールプレイによる施行演習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：構造一覧表解説・作成演習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第10回：解釈の基礎(1) 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第11回：解釈の基礎(2) 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第12回：結果の整理と報告書の書き方 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。(2時間)

第13回：アセスメントの実際・テストバッテリー 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。（2時間） 第14回：アセスメントの実際・事例検討 事前学習：関連する参考文献を調べ、事前に知識を得ておくこと。（2時間） 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておくこと。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：これまでの講義や演習を復習しておく。（2時間） 事後学習：授業の到達目標に達しているかを確認する。（2時間）
授業実施方法（面接授業・遠隔授業）
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
成績評価方法
授業への参加状況や与えられた課題についての報告・発表などを勘案した平常点（70%）、及び各テストを実践的に試行・分析したレポート等（30%）により評価する。
成績評価基準
・投映法の代表的な検査について、その理論や適用、実施法について理解し、説明できるか。 ・臨床現場や実習機関において使用頻度の高い投映法検査について、実践的に使用するための基礎を身につけたか。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて ☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他 5) その他 ☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
テキスト、参考図書
・ロールシャッハ・ワークブック（第5版） J.E.エクスナー著 中村紀子、津川律子、西尾博行訳 金剛出版 2003 ・ロールシャッハの解釈 J.E.エクスナー著 中村紀子、野田昌道監訳 金剛出版 2002
その他（受講上の注意）
各種心理検査についてテスト（器具）の取り扱いには慎重にし、またデータの管理や情報の守秘については厳重であること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域支援臨床心理学特論Ⅱ			担当教員	稲木康一郎、目黒 達哉、吉水ちひろ、 渡辺 克徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CP-CP-2137	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学研究科 臨床心理専門科目 応用科目（地域支援系）					
求める学習成果（教育目標）					
心理臨床実践の場を理解し、自らの適用する力					

授 業 の 内 容	
我われは地域で生まれ、学び、働いて、老い、死んでいく。地域コミュニティの課題をいかに支援していくのかも心理専門職の仕事である。本特論では、地域課題の解決に取り組んでいる専門家の実践と将来構想を伺う。保健医療・福祉・教育等の現場でどんな支援が求められているか、地域臨床の実践を学び、自身のこれからの臨床活動について考える機会を得る。	
授 業 の 達 成 目 標	
心理臨床の実践の場を理解し、その場に必要支援を理解する力を身につける。	
授業の計画及び授業外の学習方法	
第1回：オリエンテーション（稲木） 事前学習：シラバスを熟読すること（2時間） 事後学習：心理職の職能団体のホームページを閲覧すること（2時間） 第2回：HIVカウンセリング①【保健医療】（稲木） 事前学習：HIV支援について調べる（2時間） 事後学習：講義内容について受講者どうし話し合うこと（2時間） 第3回：HIVカウンセリング②【保健医療】（稲木・外部講師） 事前学習：HIV支援について調べる（2時間） 事後学習：小レポートをまとめること（2時間） 第4回：勝山市のSC実践【教育】（稲木・外部講師） 事前学習：勝山市・大野市の風土について調べる（2時間） 事後学習：小レポートをまとめること（2時間） 第5回：嶺南の医療実践【保健医療】（稲木・外部講師） 事前学習：嶺南の風土について調べる（2時間） 事後学習：小レポートをまとめること（2時間） 第6回：学生相談①【教育】（稲木） 事前学習：学生相談について調べる（2時間） 事後学習：講義内容について受講者どうし話し合うこと（2時間） 第7回：学生相談②【教育】（稲木・外部講師） 事前学習：学生相談について調べる（2時間） 事後学習：小レポートをまとめること（2時間） 第8回：中間まとめ（稲木） 事前学習：第7回までに提出した小レポートを読み返すこと（2時間） 事後学習：最終レポートをまとめること（2時間） 第9回：地域における傾聴ボランティアの養成（目黒） 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第10回：地域における不登校児童生徒の支援①ー心理職とボランティアの協働・連携ー（目黒） 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第11回：地域における不登校児童生徒の支援②ー総合病院小児科の心理職の実践ー（目黒） 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間） 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）	

- 第12回：地域における自殺対策の実際 医療・司法・福祉の連携（渡辺）
 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間）
 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第13回：地域の子育て支援における心理専門職の役割（吉水）
 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間）
 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第14回：地域における子育て支援の実際①——育児不安解消サポート事業の実際（吉水）
 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間）
 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
- 第15回：地域における子育て支援の実際②——保護者支援プログラム（吉水）
 事前学習：授業前に予定されている講義内容について調べ、質問項目等をまとめておくこと（2時間）
 事後学習：講義内容・資料等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

授業への受講態度および発表内容（30%）
 レポート等（70%）

成績評価基準

- ・心理臨床の現場の実践について説明できる（理解面を評価）。
- ・地域の課題解決について心理臨床の視点から考察する（思考面を評価）。
- ・自身のこれからの心理臨床活動について意見を持つ（意欲面を評価）。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

- 1) 授業時の課題に対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 3) 小レポートに対するフィードバックについて
☒授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 4) 定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
☐定期試験時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他
- 5) その他
☐授業時 ☐仁大eラーニング ☐メール ☐その他

テキスト、参考図書

箕口雅博 編著「臨床心理地域援助特論」放送大学教育振興会 2007 2,500円＋税

その他（受講上の注意）

修了後の実践活動を見据えて、受講してください。
 外部講師の都合により、スケジュールを変更する場合があります。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理研究演習			担当教員	大森 慈子、杉島 一郎、水田 敏郎、森 俊之
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
CP-RM-2241	4 単位	2 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間学研究科臨床心理専攻 研究指導科目				
求める学習成果(教育目標)				
臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う				

授 業 の 内 容
修士論文の作成にあたり、研究指導教員との議論等を通して、自分の研究課題を設定し、その課題を解決するための方法論等を検討する。
授 業 の 達 成 目 標
・問題意識をもち自らの研究課題を設定できる。 ・自分の研究課題に必要な研究方法を吟味し選択できる。 ・研究者として自分の考えを論理的に表現（論文執筆や口頭発表）できる。
授業の計画及び授業外の学習方法
第1回～第30回：担当教員の進め方にしたがって、文献精読や議論等を進める。 担当教員の指導のもと、各自で自分の研究課題遂行に必要な活動（文献精読、調査、観察、実験など）に取り組む。
授業実施方法(面接授業・遠隔授業)
原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
成 績 評 価 方 法
担当教員による。
成 績 評 価 基 準
・問題意識から研究課題を設定できるか。 ・研究課題に必要な研究方法を吟味し選択できるか。 ・研究者として自分の考えを論理的に表現できるか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 5) その他 ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他(担当教員による)
テキスト、参考図書
担当教員の指示にしたがうこと。
その他(受講上の注意)
修士論文の作成にあたっては、自らの研究として積極的に取り組むとともに、指導教員と十分に議論しながら計画的に進めること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。